

石クリ通信

3月号

小さな幸せその後

看護師

澤田 彰子

今年は大らかな幸せを望まず、小さな幸せをたくさんみつけたと言いましたが、年賀状の切手シートが何と8枚もあたりました。(いつもは4〜5枚くらいでした。) 欲をかいた私は8枚しかない昨年のかもめーるを調べてみたら見事に切手シートが1枚当たっていました。どうせ当たらないから・・・と当選確認をしていない方もいると思いますが皆さんも調べてみて下さい。当たっているかも知れませんよ！

はまっていること

事務

田所 弓佳

最近、子供の頃によくやっていたガチャガチャ(カプセルトイ)にはまっています。最初は1回だけやって終わりにするつもりだったのですが、可愛すぎて全部集めたいと思うようになりました。なので、ガチャガチャが並んでいると、周りには小さい子供たちがたくさんいる中、見て回るようになってしまいました。私が集めている種類の方チャガチャがなかなか見当たらず、まだまだ集まっていけないので早く集めたいです！

お世話になりました。

事務

上野 亜希

今月の二十日付で退職する事となりました。未熟者の私でしたが、患者様には温かく接して頂き感謝しております。どこかで私を見かけたら声をかけてください。お世話になりました。

初めての体験

看護助手

柴田 さち子

今年はや暖冬のため、平年に比べ気温が高く、日中半袖で過ごせる日さえありました。職場も午前中は太陽の陽射しが強く、半袖で仕事ができ最高です。立春に入り日々暖かくなってきましたね。

二月のある日寒波が来た時のこと、早朝のあまりの寒さに目が覚めて、顔を触ると氷のような寒さで驚きました。家の温度計を見たら二度！子供達が泊まりに来ると「川尻は寒い」と言っていました。私も初めての体験で寒さが身にしみました。でも日に日に暖かくなって、もう春はそこまで来ていますね。写真は川尻町折笠のつくしです。



老いのかたち

事務長

石川 都

当クリニッックは泌尿器科専門のため、受診する方たちの多くは高齢者であり、超高齢化社会のご多分にもれず、双方がそれぞれ病氣や障害を抱えつつ、互いに支えあい介護しあういわゆる老々介護のご夫婦も多い。中には子や孫と同居していても、あまり親身な介護を受けられない人々もいる一方で、老夫婦二人での不自由な暮らしの中、互いを思いやり尊重して日々を過ごしておられる方々もいる。

いつも院内コンサートに来て下さるTさんご夫妻も、最近ご主人が身体不自由になり、コンサートになかなか来られなくて残念だと、先日奥様から言われた。ご主人は無口ながらもいつもにこにこ穏やかで、奥様は明るく前向きにご主人を支えている様子。奥様曰く：毎朝主人に「おはようございます。今日もどうぞよろしくお願いします」と言うのと、主人はにこにこ笑い、ピースサインを返してくれます。私も主人を支えなければならぬので、体力をつけるため毎日筋トレをしています。・とのこと。その明るい笑顔に思わず頭が下がった。

元茨キリ学園理事長でチェリストでもあったH先生は、ご自身も腹膜透析をしつつ、認知症の奥様の介護をしていたが、年賀状には、これが私たちに与えられた老いのかたちとして、感謝をもって受け入れています。・とあった。現代のような超高齢化社会においては、老いから死への道ゆきまがますます難しく、かつ重要になってくる。そしていつも思うのは、大変な時ほど、困難な時こそ、人としてのありかたが問われ、その人の人間性が出る。・ということ。明日のわが身と思うと身が引き締まる思いがする。

車椅子用駐車スペース

院長

石川 悟

当院には玄関に近い所に、体の不自由な人のための駐車スペースがあります。車椅子マークが付いているので、誰でも分かります。ちょっとした時間だからとか、雨が降っているから見かけます。ちよつと来ないだろうとか、自分で都合のいい理屈を考えているのかも知れませんが、直接その人に注意するのが筋ですが、面と向かつてはなかなか言いにくいので、この場を借りてお願いする次第です。健常者が駐車してはいけないと法的に決まっているわけではありませんが、自分の行動を律することのできない人だ、と思われてしまうことを知っていただきたいと思っています。

車椅子の方が来院されて、身障者用のスペースが使えない場合には、乗り降りが大変でしょうから、二台分のスペースをゆつたりと使って駐車してください。駐車場が一杯になったら薬局の裏に第二駐車場もありますので。

我が家の収穫祭

看護師

太田 小百合

うちの庭の隅っこには夏みかんの木があります。いつ植えたのか覚えていないのですが、大したお世話もしていないのに、ここ数年大きな実をたくさんつけてくれます。写真は今年収穫した夏みかんです。写がんばってむきました。味は酸っぱいながらも生食できるくらいに酸味が抜けていました。自宅の庭で収穫した果物を食卓に並べると家族も喜んでくれます。小さな幸せがこぼれる気がします。小さな幸せが発見です。来年はみかん酒やジャムなどを作ろうかと思えます。



薪ストーブ事情

通信・ウェブ担当

石川 香

新築の家で初めての冬、越しになりました。薪ストーブ初始動です！

この便利なご時世に、なぜまた薪なのか：なんとなくそれがカッコいい気がして、あまり深く考えずに主人に賛成してしまいました。タイマーをセットして朝温まっているクリニッックの床暖房とまるで違い、なんとマニュアルなことか。慣れるまではなかなか火がつかなくイライラ。火が起きるまで注視してなくては行けないし、暖まるまでは10分ごとくらいに薪を入れなければいけないので、夕飯時やお風呂の時には、「あああ火が消えそうだ。」「なんてことに。最近はやつと薪の積み方を学び、安定して火を起こせるようになりまししたが、使うたびに薪調達問題が。買うと結構な値段がするので、知り合いに頼んで伐採した木を頂けることになり有難や。それでも休日は薪割りに時間を割かれ、薪をひっくり返すと大量のてんとう虫やどでかい幼虫と遭遇したりと、一生懸命な日々です。

それでも、ひと度火を付けると吹き抜けの家全体を温めてくれて、暖房いらずです。自然と家族がソファの前に集まりのんびりとする時間が一番の温もりかもしれません。

